



国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「ロータリーはあなた自身から」  
— You are the key —

高田ロータリー今年の  
スローガン

「友情を深め合い、  
ロータリーを楽しく！」



2014～2015年度

国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン  
2560地区ガバナー 佐々木昌敏  
高田ロータリー会長 齋藤 尚明  
幹事 牧野 章一

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
小柳 勝司 佐藤 憲二 石田 誠夫 澤井 祥典  
大島 誠 堀井 靖功 永井 謙

## 第11回例会 ■ 9月19日(金)

No.10

### 会長挨拶 ● 齋藤 尚明

皆さんこんにちは。高田ロータリークラブ第11回例会です。

おととい9月17日に新井ロータリークラブ創立55周年記念例会が『かわら亭』でありました。大谷ガバナー補佐と共に招かれましてお祝いを申し上げて参りました。

さて頸城区に坂口記念館“楽縫庵”という施設があります。御存知の方も多いと思いますが、坂口謹一郎博士という上越市出身の偉大な学者を顕彰する為のものです。坂口先生について話しますと長くなりますのでやめますが、その記念館の南側に門があり、その脇に4本の楷の木が植わっています。現在入口が北側ですので裏門ということになります。

楷の字は木偏に皆という字を書くのですが、檜の仲間だそうで、とにかく直立して真っすぐに伸びるといことです。漢字の楷書というのはそこからきているのだそうです。

この楷の木は実はある人から寄贈されたのだそうです。その人の名は矢野一郎さんといって坂口先生の一高、東大を通じて同級生で、しかも終生最も仲の良かった方だそうです。

矢野さんのお父さんは第一生命の創業者で長男の矢野さんは二代目の社長を務められた方だそうです。

第一生命の本社ビルは戦後GHQに接收され司令部として使われたということです。矢野さんは敗戦国の人間の卑屈さなどみじんもなく、ジェントルマンとしてGHQの将官たちと堂々と接したそうです。それかあらぬかGHQが去る時に、

マッカーサーが矢野さんに記念の時計を贈って敬意を表したそうです。

何故長々とこんな話をしたのかと申しますと、この矢野さんは日本のロータリークラブの創立に尽力された方だそうで東京ロータリークラブのチャーターメンバーということです。

また私が驚いたのは、いつも私たちが歌っているロータリーソングのうち『それでこそロータリー』『手に手つないで』の二曲は矢野一郎さんの作詞作曲だということで、マルチな才能に一寸ビックリした次第です。

ロータリーと関係の深い方が上越出身の大学者である坂口先生とまた上越市とも御縁があるということで皆さんに御紹介させて頂きました。

本日は会員卓話です。新潟日報上越支社長の野崎孝則さんよりお話して頂きます。敏腕記者として鳴らした野崎さんですから面白いお話を聞かせて頂けることと思います。よろしくお願ひします。

### 出席報告

出席率 96.0%

### メイクアップ

大島精次君・東山昶也君（9/13(土)山本和則ガバナーエレクト事務所開所式）

齋藤尚明君・大谷光夫君（9/17(水)新井RC創立55周年例会）

石倉 悟君（9/17(水)頸北RC）

高坂光一君（9/18(木)加茂RC）

大島 誠君（9/18(木)越後春日山RC・9/19(金)糸魚川中央RC）

## 委員会報告

ロータリー財団委員会  
ロータリーカード入会の勧め  
IM実行委員会  
配布物の作成及び当日の用意等、協力依頼

## 幹事報告

配布物：週報9号  
回覧物：雑誌「ROTARY」

## 10月例会プログラム

回	日	講演者：演題	会場
13	10月3日	米山記念奨学生 阿栄さん 『演題：未定』	デュオ・セレッソ
14	10月10日	丸山辰雄君（越後春日山RC） 「越後春日山RCのおいたち」	デュオ・セレッソ
15	10月17日	お月見例会	長養館
16	10月24日	NPO法人マミーズネット 理事長 中條美奈子 様 『演題：未定』	デュオ・セレッソ
17	10月31日	クラブフォーラム 『地区大会報告』	デュオ・セレッソ

## 卓話 「電子新聞」事始



野崎 孝則 君

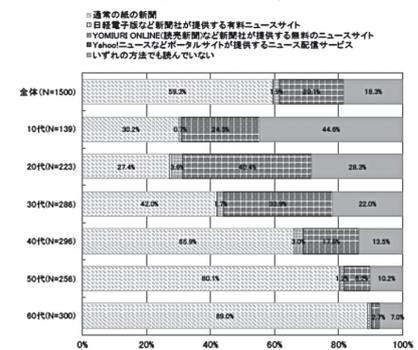
このところ全国の新聞紙面に、「電子版」「デジタル版」などの文字が目につくようになってきた。全国紙やスポーツ紙に限らず、地方紙の間でも電子書籍元年といわれた2010年以降、こうした動きが加速した。インターネットを通じた情報通信技術の高度化は日進月歩である。従来はフィクションの世界で描かれていたような未来型サービスが、新聞社の提供する現実のコンテンツとして動き出してきた。読者であれば無料で利用できるケースも多く、是非活用してほしい。

具体的にどんなサービスがあるのかというと、①紙面イメージをビューワーで提供②動画ニュースの提供③記事検索サービス④速報サービスなど。各新聞社のサービスで、現時点で圧倒的に多いのは①の紙面イメージ。朝刊や夕刊と全く同じ紙面イメージが、配達とほぼ同時刻から世界のどこにいてもネットで閲読可能となる。②の動画ニュースの提供は、新聞紙面に掲載された写真と

同じシーンを動画でも見ることが出来るサービスである。

欧米では、新聞社が紙の新聞をやめ、インターネットを使ったニュースサイトで課金するという方式に移行するビジネス形態も出てきた。今年の世界新聞大会に報告された数字によると、世界の電子版の読者は8億人。これに対して紙の読者は25億人。日本における電子版サービスも、紙の新聞を補完するための在り方というものが主流。紙の一覧性は、斜め読みという言葉があるように、日本人にとっては欠かせないツールだ。併用の時代が続く。

図1-11-2 最も利用している新聞・ニュースサイト(全体・年代別)



## ロータリーOB小坂圭一氏を訪ねて

### 「元気ですか？」

石田 誠夫 君

7月31日に高田ロータリークラブの重鎮であった小坂圭一さんの自宅に行ってお会いしてきました。92才になられていますが、応答もしっかりしておられ奥様もお元気でした。小坂さんの次男庸雄君は私の小学校から高校までの竹馬の友であり、Nikonの重役から現在顧問をされています。

子供のころより両親共々親類同様のお付き合いをしており、亡き父もロータリアンだったことから、皆、ロータリーが大好きな仲間だったそうです。

小坂圭一さんは高田ロータリークラブ発足3年目に入られ、当時全国一若いロータリアンだったとのこと。故高倉武雄さんが会長で、故八木太平さんの推薦で入られ、元いづも屋の社長 故渡辺善造さんと一緒だったそうです。私の父はその2年後に入会したとのこと。当時は東京ク

ラブ発足時期と同じこともあり、東京クラブを目標とし当時は30人前後で家族ぐるみの和気あいあいだったとのこと。私も小学生のころ、佐藤憲二さん、同級生だったいづも屋の社長の娘さん、三光電気の本間さんの娘さんと子供の頃クリスマスパーティーに出てやや恥づかしい気分だった思い出があります。当時からやはり高田ロータリークラブは上越地域の紳士の集まりであり、東京を目標としていたとの事もあって元気でなかなか楽しいひと時を過ごしていたとのこと。

ちなみに発足時のチャーターメンバー24人に祖父喜二郎がおり、我が家は3代に渡り高田ロータリーにお世話になっている事がわかりました。

